

2023年10月15日（日）／説教者：國分美生

説教：「傷が祝福となる」

聖書：イザヤ書53：1～12

私たちはイエス・キリストに従い、イエス・キリストを中心として、私たちの信仰共同体を形成しています。祈りと行動をもって、日々、キリストの平和づくりに参与したいと歩んでいます。ですが、「平和は足元から」という言葉があるように、共同体の中での私たち一人一人の働きが、平和をつくりだす行いであることを改めてかみしめたいと思います。

この社会では、早い、強い、効率がよい、など、パワフルであること、丈夫であることが評価されます。健康な人の基準に合わせた社会の仕組みになっています。近年、ユニバーサルとか多様性、という言葉が大事にされつつありますが、本当の意味で誰もが安心安全に、平安に暮らせる社会にはまだなっていません。教会というのは、そんな社会の中で疲れてしまった人、癒しを必要とする人が多くやってくる場所・共同体と言えます。教会もまた、社会の基準が持ち込まれ、機能してしまう危険性があります。だから私たちは、本日の聖書のように、傷ついた、小さな、助けを必要とする神のイメージ…それはまるで十字架にかけられたイエス・キリストのイメージそのものですが、その救い主のイメージを大切に持っていきたいと思わされます。そのうえで私たちは、指導したり、命令したり、力強く人々を引っ張っていく能力はないけども、困難にある人をすぐに見わけ、ほほえみやまなざしを向けたり、一輪の花、または一言で、「あなたのそばにいて、共に十字架を担いましょう。大丈夫だよ」と伝えることが出来ます。愛をもって共同体の中で対立するメンバー同士を真に和合させることが出来ます。平和を創り出す人とはこのような働きをする人です。

この平和のビジョンは教会という閉じられた枠を飛び越えます。本日も紹介した絵本、「チャーリー、こっちだよ」。実は職場の小学校の4年生の担任をしている先生から教えてもらいました。傷ついた者同士、お互いを支えながら、そしてお互いの賜物や存在を素晴らしい、と感動しながら生きることがどれほど今、大事であるか…そのことを実感している仲間と、教会の中に限らず、わたしたちは日々出会うでしょう。出会った人たちとの間に、とても平安な、美しい瞬間が立ち起こるときがあります。その瞬間、瞬間を…すなわち、点と点を線でつないでいくことが、神の国なのではないか。そう思われます。（國分美生）